

マリンレジャー安全レポート

第七管区海上保安本部
マリンレジャー安全推進室
TEL 093-321-2931(担当:橋本)
E-mail:kyuunan7-j7vj2@kaiho.mlit.go.jp

今回のテーマは霧です

第69号(平成23年5月)



つければ 浮くぞう
ライフジャケット

ライフジャケット着用推進会議

平成23年3、4月
プレジャーボート等
海難発生隻数

合計	14隻
衝突	1
乗揚	2
転覆	2
浸水	0
推進器障害	3
舵障害	0
機関故障	2
火災	0
爆発	0
行方不明	0
運航阻害	4
安全阻害	0
その他	0

マリンレジャーに伴う
海浜事故者数

合計	3人(0人)
遊泳中	0(0)
釣り中	3(0)
サーフィン中	0(0)
タビング中	0(0)
その他	0(0)

※()内は死亡
・行方不明者数



事例1(プレジャーボート1名乗り)

Aさんは、5月8日午前7時頃に、定係港を出港し沖合いで魚釣りをしていましたが1時間ほどすると濃霧となり、陸岸が見えなくなりました。昼頃になれば視界は回復するだろうとそのまま釣りを続けましたが昼過ぎになっても霧は晴れず、自力で帰ろうと方向が分からないまま走り回っているうちに燃料がなくなり、どうしようもなくなったため、翌9日午前3時40分に118番で救助を求めました。発動した巡視艇が約1時間後にAさんの船を発見し曳航救助しました。

事例2(船外機付きゴムボート1名乗り)

Bさんは、5月8日午前10時頃、定係港を出港し、ポイントに向かいましたが、濃霧のため自分の位置が全く分からなくなってしまいました。Bさんは錨を入れ暫く待っていましたが視界が一向に回復しないので午後0時過ぎに118番で救助を求めました。発動した巡視艇が現場に向かいましたが視界が良くなったためBさんは自力にて航走し無事定係港に帰港しました。

教訓 どちらの事例も怪我や船体の損傷はありませんでしたが、捜索には巡視船艇、航空機、水難救済会の救助船などが多数出動することになります。GPS、コンパス等の航海計器を持たない小型船で、位置が分からなくなったら、むやみに走り回らず錨を入れ漂流を防ぎながら救助を要請することが大事なポイントです。ただ、それより前に天気予報で注意報、警報の発令状況を確認し、危ない時は出港を取り止めることが一番大事ですね。

また、AさんもBさんも携帯電話で118番通報したことから、七管区司令センターで大まかな位置を知ることができました。GPS付き携帯ならピンポイントで位置がわかります。数人で乗船して海難に遭った場合はそれぞれの携帯で118番通報して下さい。海上保安庁で正確な位置を把握することができます。

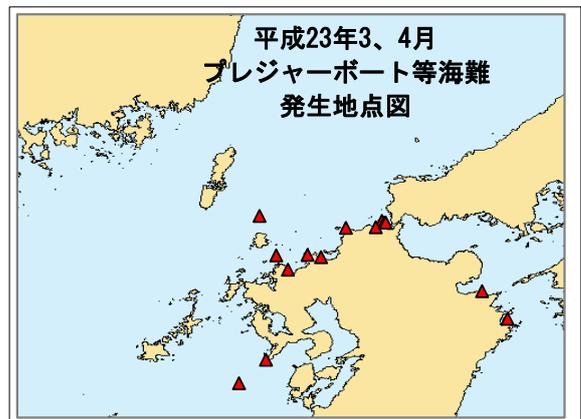
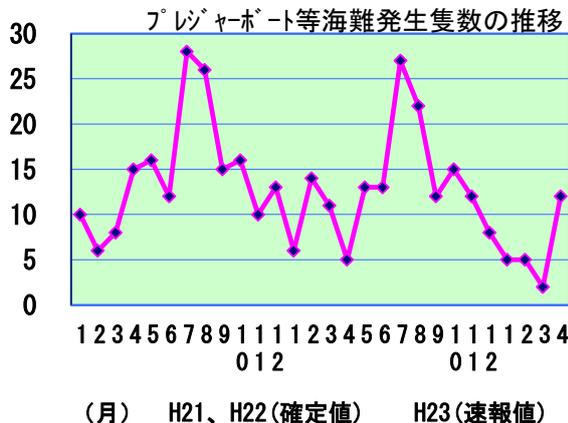
※非通知設定など特殊な設定をしていると位置が表示されないことがありますので注意して下さい。



5月9日(月)朝

七管区海上保安本部から見た関門海峡

普段は見えている関門橋が霧のため霞んでいます。5月3日から9日にかけて黄砂や濃霧による視界不良に起因する海難が七管区内で6件発生しています。





霧にもいろんな種類があります。5～6月頃にかけて最も多く海上で発生する移流霧は、朝方に発生する放射霧と違って広範囲で長い時間視界不良の状態が続きます。波が穏やかでも海上濃霧警報が発令されているときは出港を控えましょう。

夜霧に感謝しているのは心の広い裕次郎さんだけでは・・・??

●霧の発生について

海上に霧が発生すると、視界が遮られるため船舶の航行に危険が生じますが、霧とはどのような状態を言うのでしょうか。

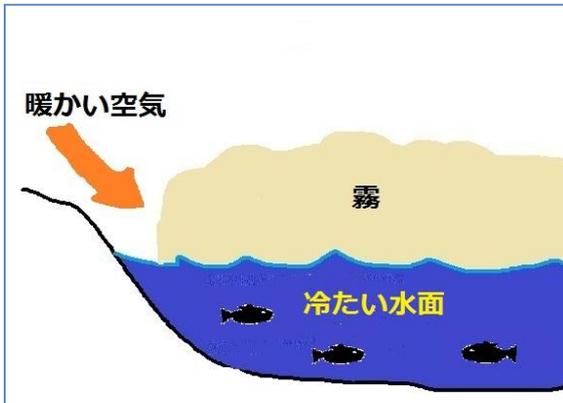
霧とは、大気中に多数の、ごく小さな水滴が浮かんでいる状態のことを言います。

海上で発生する霧は、暖かく湿った空気が、温度の低い海面上に流れ込み、その空気が冷やされることにより、空気中に含みきれなくなった水蒸気が凝結して微水滴となり、目に見えるようになった状態ですが、分かりやすく例えると雲が海面上にくっついているようなものです。

海霧は、気温が水温より高くなる、3月から7月の時期に発生し易くなります。

「霧」と同じ状態を示す「もや」という用語もありますが、視程が1km以上10km未満の場合を「もや」と呼び、視程が1km未満となった場合を「霧」と呼びます。さらに霧が濃くなり、視程が陸上で100m以下、海上で500m以下となった場合は「濃霧」と言います。

●霧の種類について



移流霧

温かくて湿った空気が、冷たい地面や海面を移動するとき、下層から冷やされ霧が出来ます。これが移流霧です。

この霧は、濃霧になりやすく、かつ、霧の継続時間も長いため、移流霧が発生した海域では、船舶にとって大きな障害となります。

放射霧

高気圧に覆われ、晴れて風の弱い夜には、地面の熱がどんどん大気中に逃げていくため、地表面付近の温度が下がります。これを放射冷却といい、このため地面付近の空気が冷やされ、空気中の水蒸気が水滴となり、霧が発生します。これが放射霧です。この霧は、日の出とともに地表付近の空気が暖められると消えていきますので、日の出後1～3時間くらいで晴れます。



蒸発霧、蒸気霧

暖かい水面上に冷たい空気が流れ込んでくると、水面から蒸発した水蒸気が冷やされて湯気のような霧が発生します。これが蒸発霧(蒸気霧ともいう)です。

風呂の湯気や、朝早く湖や川面にかかる霧や、冬の日本海で対馬暖流の上を冷たい季節風が吹くときにできる霧もそれらと同じ原理で出来ます。

他にも前線霧、滑昇霧、混合霧、逆転霧、などいろんな種類の霧があります、辞典やインターネット等で調べてみましょう。